

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん 息軒だより



令和2年度 6・7月号 (第20号)

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO法人 安井息軒顕彰会
理事長 齋藤義輝
館長 川口眞弘

〒889-1605

宮崎県宮崎市清武町加納甲 3378-1

TEL:0985-84-0234 Fax:0985-84-2634

e-mail:sokken.yasui@pic.bbq.jp

一日の計は朝(あした)にあり
一年の計は春にあり
一生の計は少壮の時にあり



QRコードを読み取ると、記念館のHPがご覧になれます。

★西郷隆盛から安井息軒に宛てた書簡みつける★

～西郷隆盛も安井息軒の文会に参加していた!!～

平成29年度の当館企画展のテーマは「安井息軒と西郷隆盛」でした。

西郷隆盛と安井息軒はお互いを知る仲だったのか否かということについて詳察を加えました。その際、西郷隆盛が残した『審察』の中に安井息軒の名前が見えることから少なくとも西郷は、息軒を知っていたことが明らかになりました。さらに西郷は、互いに敬愛し合う息軒の親友・会友である水戸藩の藤田東湖を最高の師としてあがめており、息軒も西郷のことを知らないはずがない。しかし息軒が残した知人や弟子の記録には西郷の名前がなく、確たる証拠がないということで終わっていました。

そして今回のコロナ禍で休館中の5月13日、大阪在住の西郷隆盛の研究者である粒山 樹(いつき)様から、国立国会図書館のデジタルコレクションの中に『西郷南洲翁逸話』という著書があり、その中に西郷から息軒に宛てた書簡が掲載されているという情報をお寄せいただきました。粒山様は以前『審察』の存在についても情報をお寄せくださった方です。早速調べてみると両者の交友の動かぬ証拠である書簡が確かに掲載されております。さらに読み解くと、西郷は何と息軒が主宰していた文会にも参加していたことが明らかになりました。

まさに江戸末期から明治初頭の儒学の最高峰であった安井息軒、その実像がまた一つ明らかになってきました。「息軒だより」次号で詳細をお知らせします。

粒山様には書面をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。

(文責：川口)

★企画展のご案内★

「北有馬太郎 ～伝馬町の牢に散った志～」

会期：7月25日(土)～11月3日(火・祝)
時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)
会場：宮崎市安井息軒記念館 特別展示室
入場料：無料

昨年度、「息軒だより『もっと知りたい! 息軒断』」で5回にわたって連載した“悲運の志士 北有馬太郎の生涯”について、さらに深くご紹介します。どうぞお楽しみに!!

★安井息軒と感染症「天然痘」★

まさか令和の現代においてこのような事態が待ち受けていようとは思ってもよらなかったのが、今回の新型コロナウイルス禍です。

実は安井息軒が幼少期に発症した「天然痘」も病原体はウイルスです。当時はまだ予防接種や特効薬もなく人から人へと感染し、その感染力も強力な恐ろしい病気でした。感染すると半数近くは亡くなり、助かっても特に顔面に色濃く創痕が残ります。息軒自身もこの病気の後遺症のために一生苦しみます。今でこそ天然痘は終息しましたが、20世紀だけでも世界中で約3億人が亡くなったといわれており、その数は「戦争の世紀」における戦死者数よりも多いのです。

この天然痘の予防法である「牛痘法」はイギリス人医師、ジェンナーによって確立され、日本の出島にこの技術を持ち込んだのはドイツ人医師モーニッケです。宮崎の関係者でも実は、国民的歌手若山牧水の祖父である埼玉県所沢出身の若山健海や、その僚友で私財を投げうって初代の橋樑を造った福島邦成等がこの「牛痘法」を身につけ、住民に接種しています。知の巨人である安井息軒は幅広い情報網を活用し、この種痘法についていち早く情報を仕入れ、飢肥の長倉玄圭（息軒の妹・美和の長男）に命じて身につけさせ、飢肥に、清武に、そして宮崎に紹介し、その結果罹患者は激減しました。

それにしても、情報網も発達しておらず、予防法も特効薬も開発されていなかった時代において、不気味に忍び寄る感染症の影は、どんなに恐ろしかったことかとおつくづく感じる今日この頃です。（文責：川口）



★宮崎国際大学教育学部「忍が丘教養」で来館★

6月2日（火）宮崎国際大学の学生52名が来館しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で一時は開催も危ぶまれましたが、当日は梅雨の晴れ間となり、好天の中、感染予防対策に気を配りながら、2班に分かれて記念館・旧宅を見学、安井息軒に関する研修を受けていただきました。

宮崎の生んだ郷土の偉人・安井息軒の生涯とその教えに触れた学生さんたち。「三計の教え」の解説では『一生の計は少壮の時にあり』の説明に、一斉に「ほお〜っ」という声が…。彼らの中から、第二、第三の安井息軒が生まれることを期待しています!!

ご来館ありがとうございました。



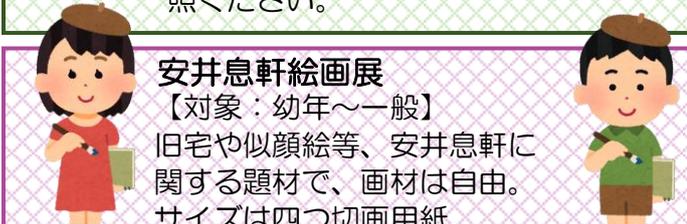
★応募してみよう★



詳しい情報は、ホームページでも随時掲載します。
ぜひご覧ください。



安井息軒顕彰書道展
【対象：幼年～一般】
学年、年齢で題字が決まっています。
詳しいことは、別刷りのチラシをご参照ください。



安井息軒絵画展
【対象：幼年～一般】
旧宅や似顔絵等、安井息軒に関する題材で、画材は自由。
サイズは四つ切画用紙。



安井息軒顕彰自由研究展示会
【対象：小学生】
安井息軒に関する自由研究。
四つ切画用紙サイズにまとめてください。

＜お問い合わせ・応募先＞

〒889-1605

宮崎市清武町加納甲 3378-1

宮崎市安井息軒記念館

※作品には住所・氏名・学校名・学年・電話番号を明記。

締め切りはすべて8月31日（月）必着。

★「みやざき三計塾」から ① ★



一昨年宮崎大学の山元准教授による「息軒の著作を読む」という講座が始まりました。内容は、私たち日本人に最も身近な中国の書物『論語』を息軒がどのように読み解いたかを、息軒の著した『論語集説』を丁寧に読んでいながら学ぶものです。孔子の教えの奥深さと息軒の読みの深さに感服することもしばしばです。

そこで、講座で取り扱った内容の1つをご紹介します。(⇒)

< 解釈 >

弟子の子貢が師である孔子に政について質問すると、孔子は食料を充足させ、兵を十分に備え、民の信があることが必要と答える。子貢は、この3つからやむを得ず1つを棄てるとしたら何を棄てるかと問うと、兵を棄てよと答える。次に子貢が、残りの2つからやむを得ず1つを棄てるとしたら何を棄てるかと問うと食を棄てよと答え、古来より人は皆死ぬものである。民は信頼がなければその地には留まらない。

漢文には返り点も送り仮名もありません。右は日本語式に読むために日本で考案された読み方です。そのため、このような古典は読み手によって解釈の仕方が変わったり、また言外の意味を読み取ることも大切になります。

息軒は、次のような解説を加えています。

「凡そ人が、政や仁、孝などこのような質問をする時は、その人が急を要しているときである。荻生徂徠は、子貢が辺境の邑（むら）の役人に任命されたために師である孔子に政を問うたものであると解説しているが、これは正しい。「立」とは「住」という意味である。しっかりと立って動かないことをいう。上の者に対する信頼がなければ、民の心は動揺し、あるいはその地を棄てて去ってしまう。兵や食が有ってもどうにもならない。だから孔子は、民は信頼がなければその地には留まらない（民の信頼を失ってはならない）と言ったのである。」

『論語』の内容は、現代の私たちにも通じる確かに普遍的なものです。問答がなされたその時代背景や彼らが置かれていた状況を知ること、より興味深く読むことができます。

(文責：長野)

顔淵第十二
子貢問政。子曰。足食足兵民信之矣。子貢曰。必不得已而去。於斯三者何先。曰去兵。子貢曰。必不得已而去。於斯二者何先。曰去食。自古皆有死。民無信不立。

< 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策にご協力ください >

- 来館時はマスクの着用をお願いいたします。
- 正面玄関に消毒液を設置しております。手指の消毒をお願いいたします。
- 入館時に「利用者名簿」へのご記入にご協力ください。



宮崎市安井息軒記念館

入館料 無料
開館時間 9:00~16:30
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)
祝日の翌日(土日を除く)
12/29~1/3

< 6月と7月の休館日 >

☆6月の休館日 1(月)、8(月)、15(月)、22(月)、29(月)
☆7月の休館日 6(月)、13(月)、20(月)、27(月)

※時節柄、団体での来場希望については予めご相談ください。

お問い合わせ：0985-84-0234 記念館まで

○ お詫びと訂正

「息軒だより第19号」に掲載しておりましたイベントの日程に誤りがありました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

「安井息軒顕彰小学生かるた大会」
(誤) 予選 2021年1月5日(火) → (正) 予選 2021年1月9日(土)



令和2年度 NPO 法人安井息軒顕彰会 通常総会(書面議決)の開催

新型コロナウイルス感染防止のため、通常総会を中止し、代わりに書面議決により、5月27日(水)、顕彰会幹部立ち合いのもと、書面議決書を開封しました。

その結果、令和元年度の事業実績報告・収支決算報告、令和2年度の事業計画・収支予算、組織体制に関する議案第1号から5号まで、承認を受けることができました。

本年度は、宮崎市安井息軒記念館の指定管理者として2期目3か年間のスタートの年です。お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望を業務の改善等に活かして、1期(平成29年度より3か年間)以上に充実した運営に取り組んでまいりますので、皆様方のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



出席者全員、しっかり感染防止対策をとりながらの総会となりました。



曇り空の下、涼しい中で和気あいあいと作業を行いました。

息軒旧宅の清掃と梅の採取

5月23日(土)、顕彰会役員及び運営委員の計12名で息軒旧宅周辺の清掃と、息軒先生手植えといわれる梅木他敷地内のおよそ20本の梅木から梅の実を採取し、併せて枯枝の剪定を行いました。

今年の梅の実は例年よりも不作でしたが、粒は大きいものが多く、顕彰会役員が梅干しに加工し、来年の安井息軒梅まつり会場で振る舞う予定です。

今後の旧宅清掃予定日は、7/25、8/22、9/12、10/31、12/12、2/9です。ご都合のよい方は、前日までに記念館までご連絡ください。(どなたでもご参加いただけます)

宮崎市・清武町合併10周年記念式典及び 安井息軒記念講演会のご案内

息軒先生の命日に、毎年開催される安井息軒記念講演会を、9月22日(火・祝)、宮崎市と共催で宮崎市清武文化会館半九ホールにて開催します。

講演会の講師は、合併時の旧清武町教育長で、当顕彰会の会員でもあります神川孝志氏です。

当日は、宮崎市・清武町合併10周年記念式典も行われます。参加無料です。皆様のご来場をお待ちしております。



記念館エントランスの安井息軒像

会員募集中

NPO 法人 安井息軒顕彰会では令和2年度の会員を募集しております。

年会費

- 一般会員 2,000 円
- 賛助会員 1,000 円
- 学生会員 500 円
- 団体会員 5,000 円 (1口)

各種お問い合わせ、会員の近況報告、情報提供などがございましたら事務局までご連絡ください。

NPO 法人 安井息軒顕彰会

事務局

〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1

(宮崎市安井息軒記念館内)

電話・FAX: 0985-71-3005 携帯: 080-8589-0569

e-mail: yasuisokken@yahoo.co.jp

